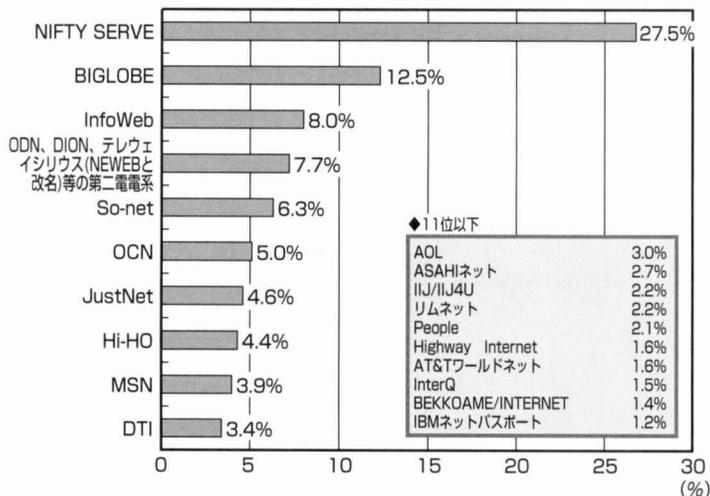


プロバイダーとバックボーン 第2章

個人ユーザーではNIFTY SERVE1位

個人向け人気プロバイダー

資料2-2-4 個人ユーザーの契約プロバイダー上位10件



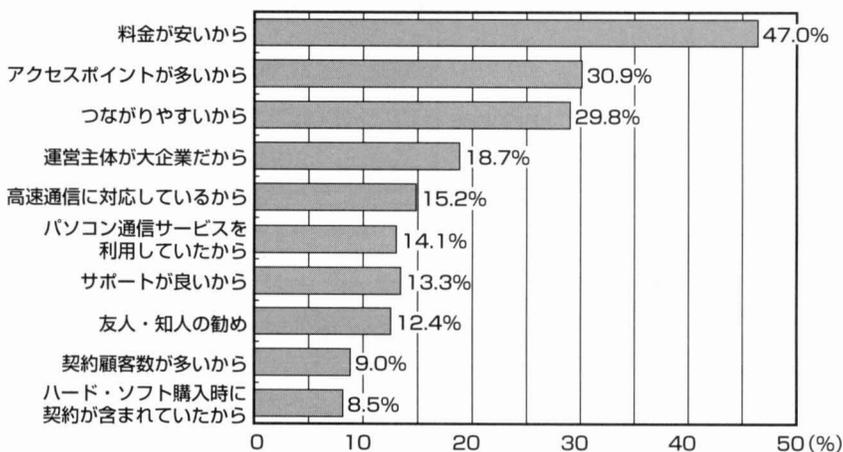
インターネット白書'99 ©インプレス、
Access Media International&IAJ, 1999

資料2-2-5 契約プロバイダー上位各社の会員数
1999年3月末現在

契約プロバイダー名	運営組織	公表会員数	
1位	NIFTY SERVE	ニフティ	270万人
2位	BIGLOBE	日本電気	268万人
3位	InfoWeb	富士通	55万2,000人
4位	ODN、DION、テレウェイシリス(NEWEBと改名)等の第二電電系	日本テレコム	35万人(専用線以外)
		第二電電	14万3,000人(ダイヤルアップ)+4,200(専用線)
		KDD	6万人
5位	So-net	ソニーコミュニケーションネットワーク	50万人
6位	OCN	日本電信電話	47万8,000回線
7位	JustNet	ジャストシステム	22万人
8位	Hi-HO	松下電器産業	19万2,000人
9位	MSN	マイクロソフト	非公開
10位	DTI	ドリーム・トレイン・インターネット	14万7,000人

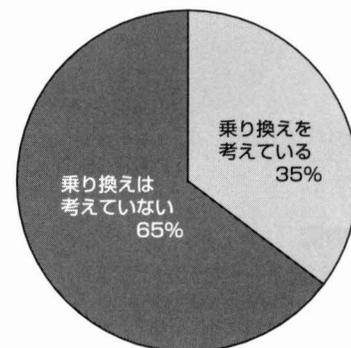
【出所】 各社資料を元に作成

資料2-2-6 プロバイダー選択理由上位10件



インターネット白書'99 ©インプレス、
Access Media International&IAJ, 1999

資料2-2-7 インターネットマガジン/インプレスウオッチの読者に聞いた
プロバイダーの乗り換え意向



【出所】 「インターネットマガジン」
1999年5月号を元に作成

解説

個人ユーザーを獲得するためには「安い接続料金で高品質なサービスを提供する」ことが必須となった今日、人気ベスト10に名を連ねるプロバイダーは2つのグループに絞られてきた。ひとつは、BIGLOBEやSo-netに代表される「メーカー系」のプロバイダーである。十分な設備投資と価格競争に耐えられる資本力を背景に、全国規模でユーザーを増やしている。そしてもうひとつが、ODNやOCNなどの「キャリア系」プロバイダーである。こちらは、自前の回線を持つ第1種電気通信事業者のメリットを生かし、メーカー系よりも安価な接続サービスを提供する。これに対して、苦戦を強

いられているのがリムネットやBEKKOAMEなどの「ベンチャー系」プロバイダーである。資金面でも設備面でも他のグループに比べて不利な両社は、今年のベスト10にはランクインできなかった。

資料2-2-6を見ても、個人向け接続サービスが「買い手市場」の傾向にあることがわかる。料金が安いことは大前提であり、ユーザーの数に応じた回線の増強が求められ、高速なバックボーンも用意する必要がある。加えて、選択理由の7位である「サポートの良さ」まで実現するととなると、プロバイダー側の負担は増加する一方である。

このような状況の中、今年の人気上位プロバイダーは、テレビCMに力を入れ始めている。資料2-2-7にあるとおり、乗り換えを考えているインターネットユーザーは、インターネット専門メディアの読者でさえ35%と意外に少ない。大手プロバイダーは、より大きなマーケットである「新規ユーザー」獲得のため、広告媒体も専門誌から一般誌や大新聞へ、そしてテレビへと移行する。必然的に、これまでよりも資本力の有無が人気を左右する重要な要素となり、さらなる淘汰が進むことが予想される。

(倉園佳三 インターネットマガジン編集長)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp